

かぶ

アフラナ科：地中海沿岸～アフガニスタン

栽培暦

月 旬	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業	○						—————						■					
	播 間 間 間						収						後					
	種 引 引 引						穫						始					
	① ② ③						①						②					
							追			追								
							肥			肥								
							①			②								

■栽培のポイント

- かぶはホウ素欠乏が出やすいので、ホウ素入り肥料を基肥として使用する。
- かぶは冷涼な気候を好み高温条件下では根部の肥大が劣る。ウイルス病の発生も多くなるので早播きはさける。
- 間引きが遅れると根部の肥大が遅れ、葉だけが伸びるので、早目に作業をすすめ、株元に日光が十分に当たるようにする。

■品種・種子量 耐病ひかり、白鷹。種子量はa 当り 50 ml。

■播種準備

ほ場の選定 有機質に富み耕土が深く、膨軟で保水力のある排水良好な壤土や砂壤土が良い。

施肥 有機物（堆肥）は地力の増強と土壤の保水力を高めるうえで効果が高いので前作で十分施用する。しかし未熟堆肥を直前使用すると肌あれの原因になるのでさける。

耕うん・うねづくり なるべく深く耕し、十分碎土する。乾燥が続いている場合は、耕起前に十分かん水し、水が浸透するのを待って施肥し、すぐに耕起うね立てして、播種する。うね幅 140～150 cmとし、やや高うね、または平うねとする。

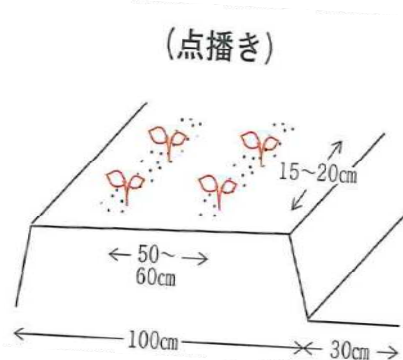
■播種 2条のすじ播きか点播きとするが、すじ播きの方がその後管理がしやすい。覆土は種子がかくれる程度に行い上から軽く鎮圧する。発芽地温は 15～20℃が適温である。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
苦土石灰	12kg	—kg	成分量 窒素 1.9 kg リン酸 1.8 加里 1.6 堆肥は前作施用しておく。
苦土重焼燐	2	—	
ホーソ入りそさい2号	10	—	
燐硝安加里 S604	—	4	



■播種後の管理

間引き 播種後 5～7 日の子葉展開時に混んでいる部分を間引く。2 回目は本葉 2～3 枚の頃に株間 7～8 cm に、3 回目は本葉 6～7 枚時に 15 cm 間隔とする。遅れると、地下部の発育が悪くなるので、遅れないように注意する。また間引きにあたっては、生育の特に早いもの、病害虫におかされているもの、葉の形の悪いもの、葉の色が濃すぎるものを抜き取り、全体の生育が揃うようにする。

中耕・追肥 中耕は、除草をかねて、条間やうねの肩を葉や根を傷めないように軽く行う。追肥は最終間引き時及び播種後 35 日頃に条間また株間に行う。肥切れするとヒゲ根が大きくなり品質が劣る。

かん水 かぶは乾燥を嫌う。特に肥大期の乾燥は、根の肥大が劣るばかりでなく、肌が悪く皮が硬くなり、その後の降雨で裂根が激発する。畑の乾き具合を見て適宜かん水する。

■**病害虫の発生** 根こぶ病が発生しやすいのでアブラナ科の連作をさけ、根こぶ病防除剤を処理してから播種する。早播きは病害虫の発生を助長する傾向がある。

■**収穫・収量** 収穫は、播種後 65～70 日で根の直径 15 cm、重さ 1 kg 程度の大きさを目安に行うが、生育状況により太ったものから順次行う。収量は a 当り 400 kg。